

配信スタート迫る！
主演・古川雄大、ヒロイン・山谷花純が登壇し、ドラマ完成発表会を開催
古川自身が手掛けた主題歌の生歌も披露！

FODオリジナルドラマ

『私の正しいお兄ちゃん』

FODにて2021年10月15日（金）0時配信スタート

公式サイト：<https://www.fujitv.co.jp/tada-ani/>

フジテレビが運営する動画配信サービス FOD にて、モリエサトシ原作の漫画を映像化したドラマ『私の正しいお兄ちゃん』がいよいよ10月15日（金）から配信スタートします。配信を前に10月6日（水）、フジテレビ本社にて主演の古川雄大とヒロインの山谷花純のふたりが登壇し、完成発表会を行いました。



（左から）古川雄大、山谷花純

「私の正しいお兄ちゃん」は2018年から講談社の「BE・LOVE」で連載されたモリエサトシによる漫画が原作のドラマで、過去を背負った男女の切なすぎる純愛ラブストーリー。日々不眠症に悩まされている謎多き青年の内田海利は、アルバイト先で出会った大学生・木崎理世の肩を借りるとなぜかぐっすり眠ることができ、理世は両親の離婚で生き別れになった兄に似た面影を持つ海利に惹かれていくが、あるきっかけで海利は殺人者なのでは？という疑惑が…。愛すること…憎むこと…本当の幸せとは…。ストーリーが進む中で登場人物たちが様々な真実に直面していく、ジェットコースター・クライムサスペンス&ラブドラマに仕上がっています。

主人公の海利役を演じる主演の古川雄大と、今回初ヒロインを演じる理世役の山谷花純のふたりがドラマの完成発表会に出席しました。司会の宮司愛海（フジテレビアナウンサー）から撮影現場での裏話などドラマについて質問され、ひとつひとつ丁寧に答えるふたり。ドラマはキュンキュンするシーンも多いということで、山谷がキュンとしたシーン BEST3を映像で紹介したり、撮影現場で古川が女性をキュンとさせるためにはどうしたらいいか、監督と相談して試行錯誤した、という話から、女性が胸キュンする男性の行動を実際にやらせてもらう場面も。

また、古川自身の念願でもあった主演作で主題歌を作る、という夢も今回実現し、古川が手掛けた主題歌「指先、手」への想いを語り、なんと生歌も披露！心に染み入る歌声に山谷も感動した様子でした。

毎話のラストに衝撃の事実が発覚するジェットコースター・クライムサスペンス&ラブドラマ『私の正しいお兄ちゃん』は、いよいよ10月15日から配信スタート！どうぞお楽しみに。

◇コメント

Q.このドラマはラブサスペンスですが、台本を読んだ感想は？

古川雄大

「ラブサスペンスなのですが、サスペンスとしても見ごたえある内容で、常に良い緊張感を保ったまま次の展開がどうなるんだろうとすごく気になる展開に魅了されましたし、過酷な状況のなかで愛し合うふたりが美しく切なく感じてラブサスペンスのバランスもいいなと思いました。僕自身サスペンスやミステリーが大好きなのでこのお話をいただいた時はとても嬉しかったですし、それに加えて主題歌もやらせていただけることになって、主演と主題歌というのをひとつの目標にやってきたので、すごく幸せに感じました」

山谷花純

「なんかあまり過去に例のない作風だなと思ひまして、自分の経験より想像力を求められる作品だなと思ひました」

Q.古川さんは殺人を犯した過去を持つ人物、山谷さんはその人を好きになってしまうという役でしたが、役作りについて苦労したことは？

古川

「難しかったですね。海利の正義感がどこかで歯車が狂ってどんどん地に落ちていく、その正義感を大切に演じました。原作と台本を読んで監督と話して役を作っていました。撮影日数も限られていたので撮影順もバラバラで、自分が今どういう状況かわからなくてパニックになった時もあるって、監督と話をして今の状況を教えていただきながらやりました」

山谷

「たくさん想像したんですけど、やっぱり限界があって、現場に行ってその場で感じたことを大事にと自分と約束して挑んだんですけど、現場で知ることはたくさんあって、痛みや悲しみだったり、海利と同じくらい深く胸に刻まれた女の子なんですけど、それを表に出さない強さというのを理世は持っていて、役にすごく助けてもらいながら、役に負けないように私も頑張らないとなと奮い立たせてもらいながら向き合った時間でした」

Q.撮影現場で印象に残ったシーンがふたりとも海のシーンだったとのことですが

古川

「一日中海で撮影してたので、体力的に大変でした。朝は暑いけど海には入らず、夜寒くなってから海に入ったので体がついていかなかったです(笑)びしょ濡れになりながら横たわってるシーンで、ライトを照らしているのを見たことのない小さい虫がたくさん集まってきて、僕の体中にいて服の中にも入るし、そんな僕を山谷さんが優しく包んでくれたことで素敵なシーンになりました(笑)」

山谷

「昼間は楽しく満面の笑みで撮影したんですけど、夜になるとちょっと物語的にもミステリアスなシーンの撮影で、古川さんが真っすぐで綺麗な目を私に向けてくれて、きっとそういうシーンになるだろうと撮影に挑んだんですけど、その想像を上回る感情を引き出してくれるお芝居をぶつけてくださったので、特別なシーンになったのではないかなと思って、私の中では残っています」

古川

「体力的にしんどかったとか言った自分がちょっと恥ずかしいです(笑)」

Q.撮影中に起きたハプニングは？

古川

「海利は眠れない役なんですけど、寝るシーンでほんとに寝ちゃった時があって、ぱっと起きたら『はい、終わりです』と言われて、30〜40分寝てたみたいで…スタッフさんが優しさで寝かせておいてくれたそうです」

山谷

「いびきをかいていたので」

古川

「えっ、いびきかいてたの!？」

山谷

「それこそ海利じゃないんですけど、久しぶりにこんなに熟睡できたと幸せそうな顔してお休みされていたので、古川さんの人柄もあると思うのですが、みんなが自然とほっこりして、ここは起こさないようにしよう現場はいい雰囲気でした」

Q.女性を「キュン」とさせる演技をするために現場で試行錯誤されたそうですが、どんな工夫をしましたか？

古川

「苦労は常にしていました。河原監督の言うことを聞く！それが工夫です。自分がやってみると違うと言われて、監督は女性なのですが、監督がやると山谷さんがキュンとしてるので、ご指摘をそのままやらせていただきました」

Q.そんな古川さんが頑張った胸キュンシーンから、山谷さんがドラマでもっとも胸キュンしたシーン BEST3を発表

- 1.「初めて海利の部屋に泊まったシーン」
- 2.「職場での海利と理世のやりとり」
- 3.「最終回、すべてが終わったラストシーン」

Q.では古川さんに生で女性がキュンとする仕草をやっていただけますか？

古川

「クランクアップの挨拶で『キュンを勉強してきます』と言ったのですが、どうやら“肩ズン”というのがあるそうで、コツは上目遣いです(と、アクリルパネル越しに古川が山谷の肩に頭をもたれる)
「今はパネル越しでしたが、本当の“肩ズン”はドラマを見ていただければご覧になれます」



ドラマ内でもご覧いただける肩ズンを披露

Q.今回初めての主題歌書下ろしについて

古川

「ドラマに寄り添う曲を作りたいと思ひまして、ふたり足りないところを補って愛を深めていくので、この歌も登場人物がふたりいて、お互い足りないところを補っていくからこそ切り開いていける未来というのをテーマに書かせていただきました。苦労したのはメロディ部分が今までやったことない曲調でしたし、歌詞も撮影しながらだったのでなかなか思いつかなかったんですが、監督が手や指先をすごく丁寧に撮影されていたことからヒントを得て書きました。明るい希望と人間の儂さや弱さの両極端をテーマに入れました」



主題歌の「指先、手」を歌唱する古川雄大

原作・モリエサトシ先生からふたりへメッセージ

「古川さん演じる海利さんの危険な魅力にドキドキしたり、山谷さん演じる理世ちゃんにニヤニヤしたりハラハラしたりしながら時折入るサスペンスな展開に見入ってしまいました。感情が盛り上がるところで来る主題歌のフレーズがまたピッタリで…。自分の漫画原作なので言うのもアレですが…このドラマすごく良くない！？ 素敵な作品に関わることができて幸せです。本当にありがとうございます！」

Q.モリエ先生からメッセージをいただきましたがいかがですか？

古川

「嬉しいですね、現場にも来てくださって、どういう風に感じられているのかなと緊張しましたが、その時もと褒めていただきました」

山谷

「生みの親である先生からそんな言葉をいただけるなんて本当に嬉しいですよね。やっぱり原作がある作品に携わるというのは、オリジナル作品と違う責任があったりして、役者はすごい考えながらお芝居をさせていただくんですけど、モリエさんの人柄もあると思うのですが、自然とこの作品に関わっていたら理世になれた。本当に作品が引っ張ってくれたんだなと、撮影しながら思っていたなと思い出しました」

Q.視聴者の皆さんへのメッセージ

古川

「サスペンス要素ありラブの要素もあり、愛ってなんだろうと考えさせられるドラマです。自分も撮影を通してすごく考えましたし、愛の可能性って無限なんじゃないかと思いました。皆さんもこの作品を見て愛ってなんだろうと考えていただけたらいいなと思います」

山谷

「ひとりで生きる強さというのはもちろん大切だと思うんですが、それにはきっと孤独という壁がつきものなんだろうなと私は思っていて、人を信じるというのはすごく難しいことなんですけど、誰かに痛みや悲しみ、人には見せられない部分を共有していくのは弱さじゃなくて、共有していくからこそ自分の人生がより色鮮やかになっていくんだろうなと今回この作品を通して私自身教えてもらいまして、この作品を見た方々にとって、新しい勇氣、小さな一歩を踏み出せる、人と何かを共有する素晴らしさが伝わったらいいなと思いました」

◇ストーリー

大学生の理世は、アルバイト先で、ずっと会っていない兄に面影の似た海利という青年に出会う。

眠れないという海利に肩を貸すうち、理世は、海利に惹かれていき…。しかし、海利のアパートで見つけた日記には

「人を殺した罪からは逃れられない」という文章が…。海利は本当に人を殺したのか…。そして、行き場のなくなった理世の恋の行方は…。次々と明るみになる真実！愛すること…憎むこと…本当の幸せとは…。

◇ 『私の正しいお兄ちゃん』 概要

- タイトル: 『私の正しいお兄ちゃん』(全8話)
- 配信: 2021年10月15日(金)0時配信
- 原作: モリエサトシ「私の正しいお兄ちゃん」(講談社「BE・LOVE」所載)
- 主題歌: 古川雄大「指先、手」(シンコーミュージック・エンタテイメント)
- 出演: 古川雄大、山谷花純、堀井新太、ダンディ坂野、喜多乃愛、佐津川愛美、橋本マナミ、長谷川純、飯田基祐 ほか
- 脚本: 加藤綾子、井上テテ、阿部沙耶佳、河原瑠(テレパック)
- プロデュース: 田淵麻子(フジテレビジョン)
- プロデューサー: 河原瑠(テレパック)、三本千晶(テレパック)
- 監督: 河原瑠(テレパック)
- 制作協力: テレパック
- 制作著作: フジテレビジョン
- クレジット: (C)モリエサトシ・講談社／フジテレビジョン
- 公式サイト: <https://www.fujitv.co.jp/tada-ani/>

◇ FOD 概要

「FOD」とはフジテレビが運営する公式の動画・電子書籍配信サービスです。「FOD プレミアム」では、ドラマ・アニメ・バラエティ・映画など最新作から過去の名作まで70,000本以上の対象作品が月額976円(税込)で見放題。また、160誌以上の雑誌も特典で読み放題となります。さらにマンガなど電子書籍も500,000冊以上の豊富なラインナップからお楽しみいただけます。会員登録不要の「FOD 見逃し無料」では、人気テレビ番組を放送後期間限定で配信、無料で気軽にご利用いただけます。テレビ局ならではのエンターテインメント体験を提供しております。

- URL: <https://fod.fujitv.co.jp/>

